ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

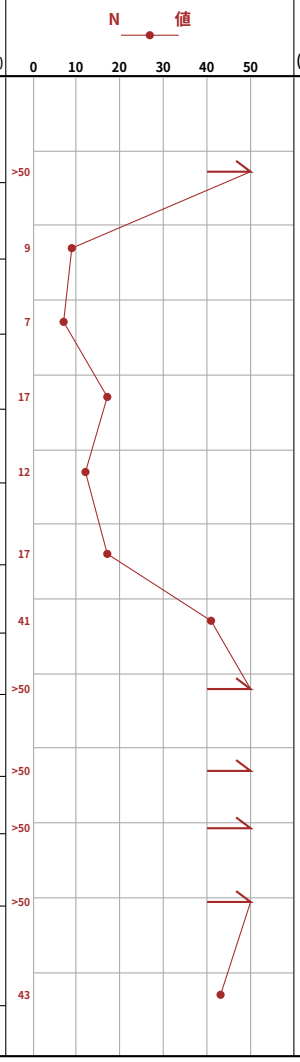
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-2	調査位置				北　緯	37 ° 06 ’ 46.7600 ”
発 注 機 関	栃木県　大田原土木事務所			調査期間	2010-11-08 ～ 2010-11-11	東　経	140 ° 01 ’ 11.0000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	770.33 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	12.00 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
	769.88	0.45	0.45		表土 (SF)	黒	非常に密な		軟質なシルト系土で植物根を混入する。層下方10cm間、砂質帯びる。		
	769.68	0.20	0.65		礫混り砂 (S-G)	暗茶			細～中砂分を主体に細粒土分を含有する。礫はφ5～10mmの亜円礫を主体に最大φ30mm程を混入する。		11/08 1.30
1					転石・玉石混り砂礫 (GS-B)	灰		硬い	河成堆積物である。φ5～20mmの亜角礫を主体に、コア長3～5cm(推定φ80～150mm程)の玉石及びコア長50cm(推定φ1500mm前後)の転石を混在する。礫間は中～粗砂分と少量の細粒土分で緩く充填される。		
2	768.38	1.30	1.95		礫混り粘土 (CH-G)	暗茶褐		中位	土はローム質で含水・粘性共に中位。全体にやや硬く、下方へ硬質化を伴う。		
3									GL-2.45m付近まで、φ1～3mmの軽石粒が見られ、以深は軽石質を帯びる。		
4								非常に硬い	礫はφ5～30mm程の火山礫を散在し、GL-4.8m付近より混入度合いの上昇が認められ、GL-6m付近にはコア長36cm(推定φ1000mm内外)の転石をも混入している。		
5								硬い			
6						暗褐		非常に硬い	GL-6m以深、スコリア及び砂分の含有が顕著である。		
7	763.33	5.05	7.00		転石・玉石混り火山灰 (VA-B)	暗褐			火山噴出物を堆積起因とする粘性土であり、砂分を不規則に含有している。全体に粘土化したスコリアや軽石粒を散在し、GL-11.5m以深では軽石質が強まる。		
8											
9									φ10～30mmの火山礫を点在し、GL-8m以深ではコア長20～50cm(推定φ600～1500mm程)の転石を多量に含んでいる。又、最大ではGL-11.15m付近にコア長55cm(推定φ1600mm前後)をも認める。		
10						暗灰褐			土性は固結状態にあり、非常に硬質である。		
11											
12	757.88	5.45	12.45								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	7	8	35/8	50/28	>50
1.43					
2.15	4	2	3	9/30	9
2.45					
3.15	2	2	3	7/30	7
3.45					
4.15	5	5	7	17/30	17
4.45					
5.15	4	4	4	12/30	12
5.45					
6.25	6	5	6	17/30	17
6.55					
7.15	11	12	18	41/30	41
7.45					
8.15	16	34/2		50/12	>50
8.27					
9.25	17	33/3		50/13	>50
9.38					
10.00	14	36/5		50/15	>50
10.15					
11.00	12	38/2		50/12	>50
11.12					
12.15	12	15	16	43/30	43
12.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						11/08
						11/09
						11/10
						11/11